

Challenge NOW

Challenge NOW

政策で世界をリードする



森 祐介

メディカルゲノム専攻2011年3月博士課程
単位取得退学(2012年9月博士課程修了)
現職：文部科学省大臣官房国際課
国際協力企画室 企画調査係長

在学中は、遺伝子動態分野(中村義一先生(現名誉教授))において、合成生物学、生物学に関する研究に従事するとともに、医学系研究科のRAとして医科研・公共政策研究分野(武藤香織先生)にも所属し、生命科学の倫理的・法的・社会的課題にも取り組ませていただきました。

研究者の道も考えましたが、より多くの人がより豊かな生活を送ることができる

社会の仕組み作りに携わりたいという思いから、2011年4月に文部科学省に就職しました。入省後すぐに配属されたのは、研究振興局ライフサイエンス課という、生命科学研究のうち、脳科学、再生医療、創薬・医療機器開発、橋渡し研究といった国として最重要視する研究分野を推進する部署でした。私は再生医学研究推進室の係長として、iPS細胞等の幹細胞を用いた再生医療研究の推進のため、研究プロジェクトの立ち上げ、国家戦略・関連法案の策定、有識者会議の運営といった業務に従事しました。再生医療研究はまさに日進月歩であり、社会からも大きな期待が寄せられていますが、他方、解決すべき課題も山積しています。そのため我々職員は、日々研究者の方々との綿密なコミュニケーションを図り、学術的な内容をフォローアップするとともに、アカデミア、産業界、患者団体、政界、他省庁、外国政府機関等、幅広いセクターの関係者と議論し、行政的立場から今後の再生医療研究のあり方を検討しています。こうした業務の中で、メディカルゲノム専攻で学んだ生命科学の知識と経験が大いに役立っています。

2013年8月からは大臣官房国際課において、TPPなど経済連携協定の交渉、国連の人権諸条約への対応、東アジア諸国との協力等を担当しています。このような国際約束は自分の専門と全く異なる分野で、また業務も多忙なため困難も多いですが、その反面良い刺激も多く、非常に大きなやりがいを感じています。

2015年夏より行政官長期在外研究員として米国の大学院修士課程で科学技術政策を学ぶ予定となっています。ここで科学的根拠に基づいた政策立案についての知識を体系的に習得し、日本の科学技術の成果を、我が国の経済的・社会的発展はもとより、世界全体が抱える課題の解決に活用できるような制度整備に貢献したいと思います。



2014年7月に国連欧州本部(ジュネーブ)パレ・デ・ナシオンで開催された「自由権規約委員会対日本政府審査会」の様子。

新米助教の奮闘



嶋田 五百里

環境システム学専攻2013年3月博士課程 修了
現職：信州大学繊維学部テニュアトラック助教

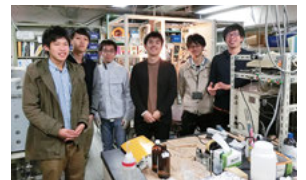
<http://www.iorishimada-lab.com>

私は現在、信州大学繊維学部でテニュアトラック助教として勤務しています。

「繊維学部」という学部はなじみが薄いかもかもしれませんが、信州大学繊維学部はかつて蚕都と呼ばれ養蚕業で栄えた長野県上田市にキャンパスをもち、歴史と伝統のある学部です。近年はロボット技術や生命科学、感性工学など、繊維に限らず幅広い分野にまたがる研究を行っています。私の所属する化学・材料系でも、環境・エネルギー技術やバイオマテリアル、機能性材料など多様な研究が行われており、様々な専門分野の話が聞けて非常に刺激を受けています。

私は学生時代に新規燃料電池の開発に取り組んでいましたが、信州大学に着任してからは環境・エネルギー分野でさらに研究の幅を広げたいと考え、長野県の山々に豊富に存在するバイオマス資源の有効利用技術の研究を始めました。新しい分野への挑戦は困難も多いですが、若い間に様々な研究に挑戦することで研究者としての幅を広げられると考えて積極的に取り組んでいます。

着任2年目の今年度からは研究室を主宰しています。発足から半年経った最近はややく設備も整ってきましたが、研究が進み出すにつれて、あれが足りない、これが壊れた等のトラブルも頻発し、対応に追われる毎日です。学生を指導して研究を進めることには自分で研究に打ち込むこととは異なる難しさがあり、試行錯誤の繰り返しですが、指導を通じて新たに発見できることも多く、刺激にあふれた日々を送っています。



トラブル続出の実験装置の前で研究室の学生とともに

この秋からは講義も担当しています。100人以上の学生を相手に毎週講義を行うのは想像以上に大変で、準備が夜中までかかることもしばしばです。先日の中間試験では苦勞して準備した講義の内容が半分も理解してもらえていないことにショックを受けましたが、自分の学生時代の講義への取り組みを思い返して今さらながら反省したりもしています。

今後も引き続き、環境・エネルギー問題への貢献と、良い研究者、良い指導者となることを目指して突き進んでいきたいと思っています。